

### Ⅲ 施策の展開

#### 3 実現化方策

目標を成し遂げた時に得られる達成感や、応援して味わう感動、ボランティアを通じて感じる喜び、勝負に負けて感じる悔しさなど、スポーツを通じて得られる様々な想いを、私たちはだれかへ伝え、共有することができます。また、スポーツ選手の真剣勝負の姿など、だれかのスポーツをする姿に私たちは共感を覚えます。

スポーツはこうした様々な共有・共感によって、人と人を結び付けて、「自分もスポーツをしてみたい、関わりたい」という思いを惹き起こします。

本計画では、スポーツが持つ共有・共感に基づいて、以下の3つの推進力により、施策の実現を図ります。

##### ◆情報の受発信

- ・スポーツの魅力を感じることで、市民ニーズに合った取り組みを進めるため、市民と行政で情報の双方向の流れをつくり、情報を共有していくことが必要です。
- ・情報を発信する際は、対象を明確にして、市民にとってわかりやすい情報提供を図ります。市民についても、積極的に情報を発信する役割を担い、行政やスポーツ実施主体へ、市民の関心を伝えることを心掛けるとともに、市民どうしでの情報交換を図ります。行政やスポーツ実施主体は、現場などでの市民とのコミュニケーションを、市民ニーズを把握する重要な機会と捉えるなど、情報の受信も積極的に行います。
- ・情報の受発信の充実を図ることで、市民がスポーツに接する機会が増え、さまざまなスポーツに親しむことが可能となるとともに、取り組みに対する満足度が高まります。

##### ◆人づくり

- ・スポーツに魅力を感じ、その想いを伝えていきたいと思い、行動できる人を育てることが必要です。
- ・スポーツで得られた喜びや感動を家族や友人、さらには地域へ伝えていくことで、スポーツへの興味・関心を引き、スポーツに関わりたいと思う市民を増やしていきます。市内に立地する大学、企業においても、スポーツに関する取り組みを企画・実施する中で感じる想いや気付きを、組織内で共有していくことで、スポーツの魅力を伝えることのできる人材を育てていきます。
- ・スポーツに関わる人材が育つことで、市内の各所でスポーツによるまちづくりが進められ、本計画の担い手が育つことにつながります。

##### ◆協働・連携

- ・市民と行政、体育協会、地域団体や企業等が、信頼関係のもと、それぞれの役割を担い、協働・連携することが必要です。
- ・それぞれのノウハウや強みを踏まえて、役割分担を明確にし、各主体が連携することで相乗効果を生み出し、質の高い取り組みへつなげていきます。

- ・協働・連携により、これまでになかったアイデアや取り組みだけでなく、主体間の新たな関係性が生まれることが期待されます。

以上の3つの推進力を念頭に置くとともに、施策を実施しながら、成果や改善点などに基づき、計画の進行管理を行い、実現性を高めていきます。

